

2011 年度第3回中等教育機関日本語教師研修会: 報告

今回は、荒井智子先生（大葉大學應用日語學系助理教授）、羅曉勤先生（銘傳大學應用日語學系助理教授）をお招きし、「書くことへの指導～話し合って書きだそう～」というテーマで研修を行いました。

日時：(台北会場) 2011年11月12日(土) 13:00～16:00 (交流会 16:00～17:00)
於) 交流協会台北事務所日本語センター
(高雄会場) 2011年11月27日(日) 13:00～16:00 (交流会 16:00～17:00)
於) 麗景酒店

配付資料：こちら (PDF ファイル: Acrobat Reader が必要です。)

今回の研修は、書く学習・ピアレスポンスについての講義から始まりました。まず、「書くこと」の指導に関して教師がどんな悩みを抱えているのか、また学習者は「書くこと」に対してどんな悩みをもっているのかを確認しました。そして、教師にとって苦労が多く、また学習者にとって面白さや達成感を感じることができないという現状を開示するための方法として、「話し合って書く方法」が紹介されました。

書く過程において、学習者同士が話し合い、アイデアを出し、より良いものを作り出す活動、それが「ピア・レスポンス」であること、その利点として 1. 読み手の存在を意識する。2. 仲間との対話を通して学びあう喜びを感じる。3. プロセスを通して、変化・成長が可視化できる、の3点があることが説明されました。教師と学習者という非対等の関係の中で行われる一般的な作文の授業に対し、「ピア・レスポンス」では「対等・対話・創造・プロセス・互恵性」の5つが重要点であることを押えた後、実際の授業にどのように導入したらよいのか、そのポイントや、成功するための教師の関わり方についての注意がありました。

次に、ワークショップを行いました。ワークショップ1は「居心地のよいクラスをみんなで作らしましょう」というテーマでした。講師による手順や注意点の説明の後、グループに分かれ、作業を進めました。参加者は学習者になったつもりで、クラスの問題を出し合い、それを分類し、ルールを決め、ポスターを作成、そして他のグループのポスターを觀賞するという一連の活動を行いました。意見交換後の発表では、「自分たちが主体の活動なので、とてもおもしろく感じた」「他のグループを見に行ったことで気づきがあった」などの感想や、他の科目への応用の方法についてのアイデアが出されました。

ワークショップ2は、高校生が実際に直面する進学や就職の際の面接にも役立つよう、「自己PRを書こう!!」というテーマで行われました。前半は個人作業で、タスクシー

トの質問に順に回答していくと自己PR文の流れまでが完成しました。その後、後半はペアになって、自分の文の流れを相手に話す⇄ポイントをおさえて聞くという活動を通して、より良い文章の完成に導くプロセスを体験しました。今回の研修の参加者からは、「実用性に富んでいて、実際の授業に応用できるので良かった。」「作文授業の新しい概念であり、学習者の書くことに対する抵抗感が減るだろう。」などの感想が寄せられました。

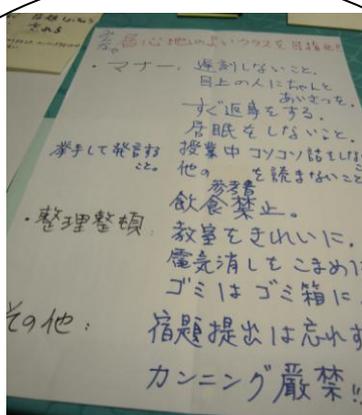
<研修会の様子>



羅暁勤先生



荒井智子先生（中央）



ワークショップ1の成果



他のグループのポスターを見て回る参加者



羅曉勤先生(前列中央左)、荒井智子先生(前列中央右)を囲んで(高雄会場)